

平成 17 年 9 月終了

修士学位論文

行為を科学するマネジメント手法の開発
- 「べき分布」のシックスシグマへの応用 -

Development of the Management Technique
which carries out Science of a Man's Act.

平成 17 年 9 月 26 日

高知工科大学大学院 工学研究科 基盤工学専攻（起業家コース）

学籍番号 1087601

高橋 龍二

Ryuuji Takahashi

行為を科学するマネジメント手法の開発

- 「べき分布」のシックスシグマへの応用 -

【サマリー】

ビジネスの3要素は、ヒト、モノ、カネといわれる。ビジネスを最も単純化して捉えれば、ヒトがモノ（サービス）を売ってカネを得るということである（最近では情報を加えた4要素という）。

かつて物々交換の時代にカネはなかったが、仲介者の出現に伴いカネが生まれた。カネという代替手段の発生が積極的な商品生産を生み、単なる仲介ではなく、商品経済という概念が生まれた。

さらに、生産活動は家内制手工業から分業の発想を経て工業制手工業（マニファクチャー）に、次いでベルトコンベアの発明から工場制機械工業へと進化を遂げ、産業革命や様々な技術革新を経て今日に至っている。

その間、生産手段もヒトから機械、ロボットに、モノは単なる商品だけではなく労働の対価としての様々なサービスに、カネは実態経済を駆け離れ、株式市場などバーチャルな経済へと進化した。

経済は、個々の企業体の活動の結果生まれる状態であり、企業体の活動は、カネという同一の基準による最大の果実を得ることを目的としている。その目的達成のためにヒトは企業を経営するのであるが、時代は変わっても経営（＝マネジメント）とは、すべからくヒトがヒトを相手に行う経済活動であることは何も変わっていない。

同一企業の場合、自社の利益追求という同じ目的（ミッション）を持った個々の人々は、当該企業と個人との関わりにおいて努力し、さらに企業内の組織の制約を受けつつ具体的な行為を行っている。

組織のしぼりが大きいほど、個人の考えに基づく行為が制限されるなど、個人と組織間の関係やそのバランスがトータルで当該企業全体の行為に集約されていくものであるが、その基本は、全て個人個人の行為がベースになっている。

これらのことから、企業経営（マネジメント）とは、

「特定の企業目的を持った枠組における人の行為の集合とその結果」

と、定義付けられるものであり、基本的には個々の人間の行為の積み重ねであると考えられることができる。

ここで、筆者はあえて「行動」と言わず「行為」という用語を用いるが、その定義としては以下の考えに基づいている。

「行動」とは、単に体を動かしたり、生理現象に基づく物理的な行いも含まれるものであるが、

「行為」とは、「意思を持った行い」であり、物理的な行いだけではなく指示や命令などの抽象的な行いも含むものである。

「人の行為を科学する」ということは、マネジメントの基礎である個々の構成員の行為に焦点を当て、当該行為が行われる背景や理由を捉え、その原因を探ることで効率的なマネジメントにつなげていくという発想である。

そのためには、定性的な要素が多い人の行為を定量化することが必要となるが、行為をカウント可能な形に置き換えることで定量化（　という行為を何回行ったか）し、定量化指標に基づく比較や分析を行うというアプローチが有効である。

本研究は、マネジメントの基礎である人の行為を分析し、既存のマネジメント手法を活用しつつ新たなマネジメント手法として位置付けることを目指すものである。

そのアプローチは「人の行為はべき分布する」という仮説からスタートし、事例研究による仮説実証を行う。

そして、仮説に基づき、生産管理手法として有効なシックスシグマによるマネジメント手法をベースに人の行為という要素を加味し、新しいマネジメント手法として開発していくことを目指すものである。